

2017年3月期  
第3四半期決算(参考資料)  
(2017年2月7日)

---

 **日清食品ホールディングス株式会社**  
(2897)

EARTH FOOD CREATOR

 NISSIN  
GROUP

- ただ今、ご紹介に預かりましたCF0の横山でございます。  
本日15:00に東証適時開示情報および弊社ホームページにて発表いたしました、第3四半期決算について、ご報告申し上げます。
- お手元に「平成29年3月期 第3四半期決算短信(連結)」、「第3四半期決算 補足資料」、「第3四半期決算(参考資料)」をご用意ください。
- それでは、主に「第3四半期決算(参考資料)」を使いまして、当期の業績について、お話ししますので、よろしくお願いいたします。

それでは、1ページ目をご覧ください。

## ■「売上高」

- 第3四半期累計：8期連続増収、4期連続で最高売上を更新
- 通期予想：4期連続の最高売上更新となる「**5,000億円**」を目指す

## ■「営業利益」

- 第3四半期累計：退職給付会計による影響もあり前期比で若干の減益  
本業で稼ぐ力を示す「調整後営業利益\*」は前期比で19.8%増益
- 通期予想：修正計画(11月に上方修正)の「**278億円**」以上を目指す

## ■「親会社株主に帰属する四半期純利益」

- 第3四半期累計：13.6%の減益
- 通期予想：修正計画(11月に上方修正)の「**225億円**」以上を目指す

エグゼクティブサマリーになります。

- 売上につきましては、この第3四半期累計は、8期連続の増収で、この期間における最高売上を4期連続で更新いたしました。通期では、4期連続の最高売上の更新を果たすべく、「5,000億円」を目指しています。
- 営業利益につきましては、退職給付費用の増加による影響で、前期比で若干の減益となりましたが、この費用を除き本業で稼ぐ力を示す「調整後営業利益」では前期比で約20%増益となりました。また、通期では、11月10日に公表した修正計画の278億円を超える着地を目指して着実に進んでおります。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期比で14%ほどの減益となっておりますが、通期では修正計画の225億円を超えるものと考えています。

それでは、資料の2ページ目をご覧ください。

第3四半期 実績サマリー

2

単位: 億円	2016年度			2015年度
	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
売上高	3,698	+223	+6.4%	3,475
営業利益	217	▲5	▲2.5%	223
調整後営業利益*	250	+41	+19.8%	209
経常利益	253	▲23	▲8.2%	276
親会社株主に帰属する 四半期純利益	199	▲31	▲13.6%	230
営業利益率	5.9%	-	▲0.5pt	6.4%
経常利益率	6.8%	-	▲1.1pt	7.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益率	5.4%	-	▲1.2pt	6.6%

\* 調整後営業利益=営業利益 - 退職給付会計の影響

EARTH FOOD CREATOR 

第3四半期の実績サマリーになります。

- ・ 売上高は、前期比プラス223億円、6.4%の増収の3,698億円となりました。この増加にはブラジル、ぼんち、インドネシアの連結が大きく寄与しておりますが、一方で為替の影響が100億円マイナスに影響しています。新規連結の影響と為替の影響を除くと、実質、約130億円の増収です。
- ・ 続きまして、営業利益ですが、前期比マイナス5億円、2.5%の減益の217億円で着地しました。退職給付費用の増加の影響が大きかったためですが、この影響を差し引いた「調整後営業利益」は250億円となり、前期比プラス41億円、+19.8%の増益となっています。
- ・ この「調整後営業利益」は本業で稼ぐ力を示した指標で、当社の中期経営計画の中で重要なKPIと位置付けています。
- ・ 経常利益は、前期比マイナス23億円、8.2%の減益の253億円、
- ・ 親会社に帰属する四半期純利益は、前期比マイナス31億円、13.6%の減益の199億円で着地しました。
- ・ 尚、営業外損益、特別損益などについては、後程ご説明いたします。

それでは、3ページをご覧ください。

## セグメント別 売上実績

3

単位: 億円	2016年度			2015年度
	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
即席めん事業	2,026	+36	+1.8%	1,990
日清食品	1,720	+44	+2.6%	1,676
明星食品	306	▲8	▲2.6%	314
低温事業	466	+14	+3.1%	452
菓子・飲料事業	385	+95	+33.0%	290
国内その他	29	+2	+7.9%	27
<b>国内計</b>	<b>2,905</b>	<b>+147</b>	<b>+5.3%</b>	<b>2,758</b>
米州地域	432	+102	+30.9%	330
中国地域	261	▲41	▲13.6%	302
アジア地域	67	+15	+29.3%	52
EMEA地域	33	▲0	▲1.3%	33
<b>海外計</b>	<b>793</b>	<b>+76</b>	<b>+10.6%</b>	<b>717</b>
<b>連結売上高</b>	<b>3,698</b>	<b>+223</b>	<b>+6.4%</b>	<b>3,475</b>

セグメント別売上実績の情報です。

- ・ 国内が147億円増収の2,905億円、海外が76億円増収の793億円で着地しました。
- ・ 国内は、日清食品、低温事業、菓子・飲料事業が好調です。菓子・飲料事業は、「ぼんち」の連結効果が大きいですが、その要素を差し引いても増収となっています。
- ・ 海外は、76億円の増収ですが、為替のマイナス影響が100億円できていることを考えると、実質的には176億円の増収です。

では、4ページ目をご覧ください。



続きまして、セグメント別の売上増減要因をご説明します。

- 日清食品ですが、売上が1,720億円と前期比44億円の増加となりました。45周年を迎えたカップヌードルでは、「カップヌードルリッチ」、「謎肉祭」等の新製品が話題になりましたが、既存品も着実に売上を伸ばし好調です。また、40周年のアニバーサリーイヤーだった「どん兵衛」、「日清焼そばU.F.O.」も順調に売上を伸ばしました。
- 明星食品は、306億円と8億円の減収です。昨年度は絶好調だった「明星 一平ちゃん夜店の焼そば」の減収などが響き、カップめんの売上を落としました。袋めんは、「明星 チャルメラ」の50周年のアニバーサリーということで売上を大きく伸ばしましたが、カップめんのダウンをカバーできませんでした。
- 低温事業は、チルド事業・冷凍事業ともに好調をキープしており、466億円と14億円の増収となりました。
- 菓子・飲料事業は、「ぼんち」の連結効果が売上に大きく貢献する中、日清シスコでは、「ココナッツサブレ」のリニューアル効果等で2%の増収、日清ヨークも「ピルクル」、「十勝のむヨーグルト」が好調で15%の増収となり、このセグメントで95億円の増収となりました。
- 米州地域は、為替のマイナス影響の41億円を差し引いても102億円の増収の432億円となりました。増収の主な要因は、前期の第3四半期からブラジルが新規連結となったため、その連結影響額は上期分の119億円となります。現地通貨ベースで、米国は新カップヌードルの売上増、メキシコは価格改定効果が寄与し増収となっています。ブラジルも新カップヌードルの発売効果で10-12月は2割以上の増収で着地しました。
- 中国地域は、為替のマイナス影響の46億円が響き、261億円と41億円の減収となりましたが、現地通貨ベースでは増収となっています。香港は前年並みの売上となりましたが、大陸は引き続き増収を続けています。
- アジア地域は、為替のマイナス影響が10億円ありましたが、67億円と15億円の増収となりました。インドの売上増、インドネシアの新規連結効果が寄与した結果です。
- EMEAは欧州地域が引き続き堅実に売上を伸ばし33億円で着地しております。

では、5ページ目をご覧ください。

セグメント別 営業利益実績

5

単位: 億円	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
即席めん事業	223	+7	+3.2%	216
日清食品	212	+12	+6.1%	199
明星食品	11	▲5	▲32.2%	16
低温事業	18	+11	+159.0%	7
菓子・飲料事業	22	+12	+113.9%	10
国内その他	13	+12	+1040.3%	1
<b>国内 計</b>	<b>276</b>	<b>+41</b>	<b>+17.7%</b>	<b>234</b>
米州地域	11	+8	+318.1%	3
中国地域	22	▲5	▲18.4%	26
アジア地域	△7	+7	-	△15
EMEA地域	1	+3	-	△2
<b>海外 計</b>	<b>26</b>	<b>+13</b>	<b>+108.2%</b>	<b>12</b>
調整額 計	△84	▲60	-	△24
<b>連結営業利益</b>	<b>217</b>	<b>▲5</b>	<b>▲2.5%</b>	<b>223</b>
(参考)調整後営業利益	250	+41	+19.8%	209

EARTH FOOD CREATOR

NISSIN GROUP

続きまして、セグメント別の営業利益情報です。

- ・ 国内は、41億円増益の276億円で着地しました。
- ・ 海外は、13億円増益の26億円となりました。海外は為替の影響がマイナス3億円出ていますので、実質的には16億円の増益です。
- ・ そこに、退職給付費用会計の影響・のれん償却費・グループ関連費用など、調整額のマイナス84億円を合計した217億円が、当第3四半期の営業利益となります。

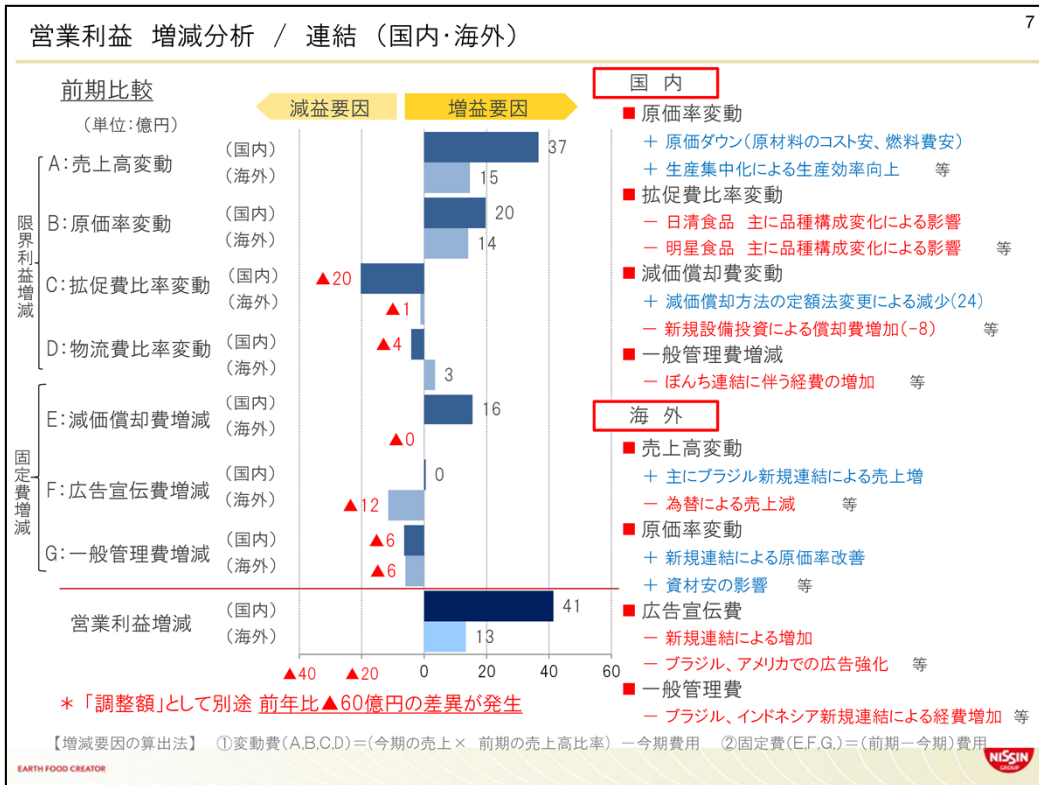
では、6ページ目をご覧ください。



続いて、セグメント別の営業利益の増減要因をご説明します。

- 日清食品は、「カップヌードル」、「どん兵衛」、「U.F.O.」ブランドなどによる増収効果、原材料安・燃料費安、償却費の会計方法の変更による増益要因が、オープンプライス商品の構成比が減少したことによる拡販費比率の上昇、一般経費の上昇、新規設備等による償却費増などの減益要因を上回り、212億円と12億円の増益となりました。
- 明星食品は、減収要因に加え、品種構成の変化の影響が響き、11億円と5億円の減益となりました。
- 低温事業は、チルドが主に増収による増益。冷凍は増収に加え、単品力上昇による生産効率向上が貢献しています。このセグメントで11億円増益の18億円で着地しました。
- 菓子・飲料事業は、「ぼんち」の新規連結の影響がフォーカスされがちですが、それ以上に、日清シスコが商品リニューアルによるコスト構造の見直しを行ったことで大きく増益に貢献しました。日清ヨークは、大幅増収による利益増はありましたが、7月に稼働した関東工場の償却費増もあり、増益幅は小幅に留まりました。
- 国内その他については、ホールディングスの収支バランスが安定し12億円の増益となっています。
- 米州事業ですが、11億円と8億円の増益となりました。米国、メキシコが為替影響が若干のマイナスとなっています。ブラジルの連結効果は7億円のプラス。現地通貨ベースで米国は減益、メキシコは増益で着地しています。
- 中国地域は、為替影響による4億円のマイナスが響き22億円と5億円の減益となりました。大陸の営業利益は売上増の効果もあり増益でしたが、香港地域はブランド強化策や卸問屋変更に伴う費用を引き当てたことから減益となりました。
- アジア地域は、為替の影響が1億円のプラスに働き、7億円の営業損失となり、前期比で7億円の赤字縮小となりました。インドの増収、ベトナム事業のスリム化、タイのカップヌードルの販売効果が赤字縮小に大きく寄与しました。またシンガポールも増益で着地しています。
- EMEA地域は、為替影響はほとんど無く、欧州地域の売上増効果、トルコ広告宣伝費削減により増益となり1億円で着地しました。

では、7ページ目をご覧ください。

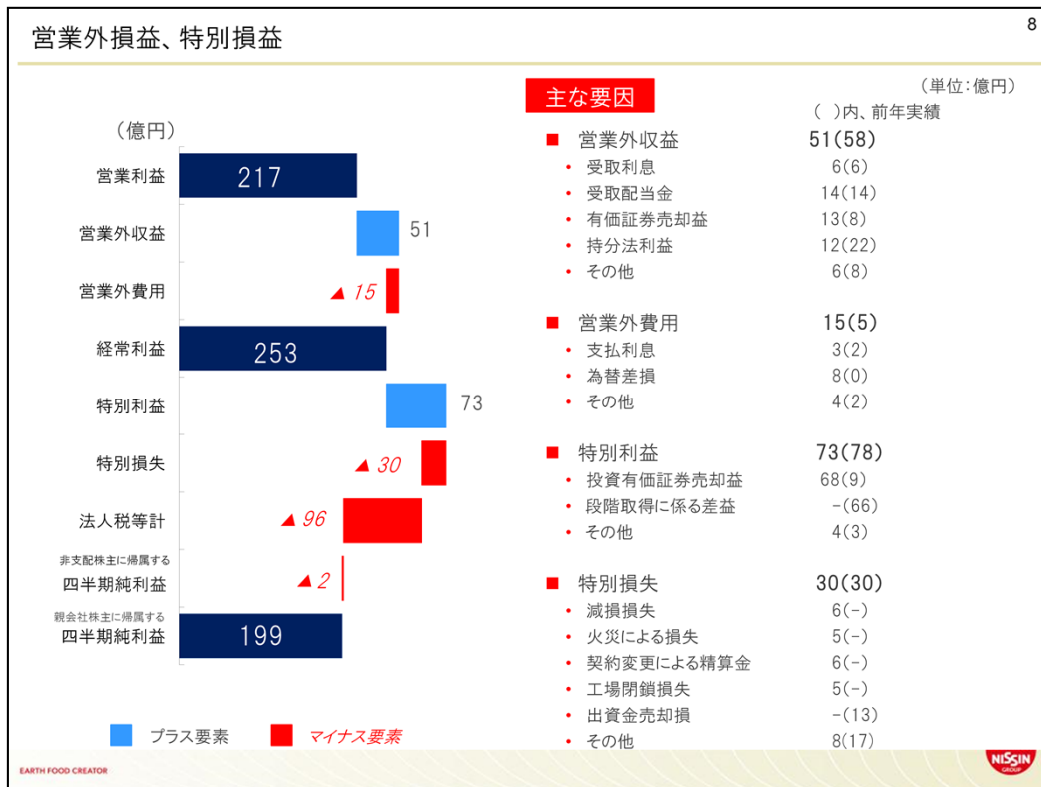


続きまして、営業利益の費用別増減分析ですが、ここでは国内と海外に分けて解説いたします。  
では、初めに国内の分析から説明いたします。

- ・ 売上高変動については、売上が147億円増えたことで37億円の増益効果となりました。
- ・ 原価率比率変動の影響は20億円の増益効果となりました。グループ全体で原材料安、燃料費のダウンがプラスに作用しています。また冷凍事業の生産の効率化によるコストダウンが効いています。
- ・ 拡促費比率の変動による影響は20億円のマイナスです。主に、日清食品、明星食品の影響ですが、特売価格が下がったわけではなく、NB商品の特売頻度が上がった、オープンプライス商品などの売上構成比が下がったミックスの影響が中心です。
- ・ 減価償却費は、今年度から計算方法を定率法から定額法に変えたことにより、24億円のプラスとなりました。この期間の償却費の純増は8億円となり、差し引き16億円の増益効果となりました。
- ・ 広告宣伝費は、日清食品が若干の費用減、明星食品が若干の費用増となり、全体として大きな影響はありませんでした。
- ・ 一般管理費の増は、主に「ぼんち」の新規連結による費用増です。
- ・ 続いて、海外についてご説明いたします。
- ・ 売上高変動については、15億円の増益効果になりました。為替影響によって中国、米国が大きく減収となりましたが、ブラジルの新規連結などで海外トータルで76億円の増収になった影響です。
- ・ 原価率変動の14億円は、ブラジルの新規連結により原価率が下がったことと、中国、米国の資材安の影響です。
- ・ 広告宣伝費の12億円の費用増については、ブラジルの新規連結の影響と、米国・ブラジルの新カップヌードルのブランド強化の費用増が要因です
- ・ 一般管理費の6億円の費用増は、ブラジル、インドネシアの新規連結が中心となります。

では、8ページ目をご覧ください。





それでは、営業外損益、特別損益についてご説明いたします。

- ・ 営業外収益は51億円で、昨年に比べ7億円減少しました。その中でも持分法利益が昨年の22億円から12億円に減少しています。これはブラジルと「ぼんち」が連結になったことに起因しています。
- ・ 営業外費用については、為替差損が増えたことでマイナスが増えています。
- ・ 特別利益では、有価証券売却益が増えています。8月に売却した小野薬品工業の有価証券売却益約67億円が主な要因です。昨年は有価証券売却益の9億円に加えてブラジルの段階的取得にかかる差益66億円があったことから特別利益は前期比マイナス5億円となりました。
- ・ 特別損失が30億円発生していますが、ブラジルの火災の損失、海外の関連会社の株式評価損・契約変更による清算金、上海の工場閉鎖の損失などを計上したためです。昨年は有価証券売却損で30億円計上しているため、前期比はイーブン、特別収支は43億円と前期比約5億円の悪化となりました。
- ・ この結果、経常利益は253億円、税引き前利益が296億円となり、税金等を差し引いた結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は199億円で着地しました。

では、次のページをご覧ください。

【再掲】 修正計画（年間）2016年11月10日発表

9

■ 修正計画

単位:億円	2016年度			2015年度 (前期実績)	2016年度 (期初計画)
	修正計画	前期比	期初計画比		
売上高	5,000	+6.8%	—	4,681	5,000
営業利益	278	+5.3%	+3.0%	264	270
調整後営業利益*	323	+31.1%	+2.5%	247	315
経常利益	315	+2.5%	+1.6%	307	310
親会社株主に帰属する 当期純利益	225	▲16.3%	+2.3%	269	220

■ 修正営業利益計画(国内外)

単位:億円	2016年度			2015年度 (前期実績)	2016年度 (期初計画)
	修正計画	前期比	期初計画比		
日清食品	277	+15.5%	+3.7%	240	267
日清食品以外の国内	73	+127.4%	▲2.7%	32	75
国内 計	349	+28.6%	+2.3%	272	341
海外 計	43	+50.4%	—	28	43
調整額 計	△114	—	—	△36	△114
連結営業利益	278	+5.3%	+3.0%	264	270
(参考)調整後営業利益	323	+31.1%	+2.5%	247	315

EARTH FOOD CREATOR \* 調整後営業利益＝営業利益－退職給付会計の影響



最後に、11月に公表した修正事業計画を再掲させていただきました。

- ・ 特に、営業利益目標の278億円につきましては、皆様のご期待に沿えるよう、それ以上の着地を目指してまいりますので、引き続きよろしくお願いたします。

以上で説明を終わります。

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場的大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。



**日清食品ホールディングス株式会社**

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算説明会資料」に掲載しています。  
<http://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- この資料の金額は、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等があわない場合があります。
- 国内事業会社は原則として、2016年4月1日～2017年3月31日を「2016年度」とします。
- 海外エリアは原則として、2016年1月1日～2016年12月31日を「2016年度」とします。
  - ※米州地域(コロンビアを除く)は、2016年4月～2017年3月を「2016年度」とします。
  - ※中国地域は、2016年4月～2017年3月を「2016年度」とします。
  - ※インド事業は2016年度から決算期変更により、2015年1月～2015年12月が「2015年度、前期」、2016年4月～2017年3月が「2016年度、当期」となります。
- 新規連結等に関して
  - ※ぼんち(株)は、2015年度 期末からBS連結、2016年度 第1四半期からPL連結。
  - ※ブラジル日清は、2015年度 第3四半期から新規連結。
  - ※インドネシア日清は2016年度 第1四半期から新規連結。
- 売上・利益の「増減率」は決算短信と同じ±%表記を適用しています。
- 資料中の三角表記について:絶対値のマイナスは△、増減のマイナスは▲で表記しています。
- 海外の関連会社の収益・費用は累計期間の期中平均為替レートを適用しています。
- 「スライドNo.」は右上に付記しています。